

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 会報メール 第38号

[2012年1月号]

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第38号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー	[2]
国内から (荒木 麻由)	
・ 私とJAM徒然	[3]
国際保健医療協力のなかで (15)	(小林 潤) [4]
編集後記	[5]
次号の予定	[6]



メソトマンスリー

2012年、変わりゆくメソト、 変わらないメータオ

【メソト＝前川 由佳】



皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。遅ればせながら現地より新年のご挨拶とさせていただきます。

1月のメソトは例年にない程の冷え込みで、マフラーにニット帽、時にはダウンジャケットとすっかり冬仕様の出立ちで過ごしております。

ビルマ国内の情勢が日々変化していく中、メソトの様子も少しずつ変化してきました。現在のメソトは建設ラッシュの真っ最中中です。中心部だけでなく郊外を車で走ると、次々と建設中の建物が目に映ります。ビルマ/タイの国境にあるモエイ川にも新たな橋を建設する構想や、ハイウェイに続く新たな道路の建設構想があることで、タイ国内からのみならず、ビルマ、海外からも貿易の街として注目が高まっているようです。小さな田舎街であったメソトは、少しずつ大きな貿易の街へと変化しつつあります。

一方で、メータオ・クリニックは今後どのように変化していくのか。ビルマの民主化への動き、政府とカレン民族同盟との停戦合意を受けて、この土地にいるビルマの人々はもうビルマ国内に戻れるはず、メータオ・クリニックもビルマ国内に移動したほうがいいのか、という

った話題が毎日聞かれます。

スタッフに聞いてみます。ビルマ国内に帰ることを考えるか。

「今の段階ではわからないよ。自分の村に帰りた気持ちはあるけど、ここでの生活もあるし、今ビルマに帰っても新しい仕事を探さなきゃならないし、住む家もないよ。この先、本当の意味でどのようにビルマが変わっていくか、ここにいながら様子を見て考えるかな。」

今後のさらなるビルマ情勢の変化、それを取り巻く状況の変化に伴って、メータオ・クリニックも変わる時、変わらなければならない時がくるかもしれません。しかし、メータオ・クリニックのあり方が劇的に変わることはないだろう、それがこの話題に対しての現段階での答えです。このメソトの土地でも、ビルマ国内でも、場所はどこでもいい、医療を必要とする人が医療を受けられるようにメータオ・クリニックはあり続けるだろうと。

現在のメータオ・クリニックには今までと変わらない時間が流れています。今もなお、多くの患者さんがメソトから、ビルマ国内から訪れています。働くスタッフもいつもと変わらず、患者さんを診ています。

ハイウェイ沿い、建設中の建物



メソト市内に次々と完成していく新たなビル



きょうのゆめ

今月の主役はニュエクちゃん、7歳です。Phayang Town Schoolの小学2年生です。

将来の夢は、学校の先生になること！

学校の先生はなんでも知っているから自分もそんな先生になりたいんだそう。

好きな教科は数学とタイ語。

休み時間には、しっかり年少さんの面倒を見ていたニュエクちゃん。学校の先生になったら生徒みんなに慕われる優しい先生になりそうです。

ちょっと大人な雰囲気なニュエクちゃん 遊びながらもちびっこちゃんのお世話役です。



しかし、将来の夢は、学校の先生かお医者さんが多いですね。
次号では、ちょっと違った将来の夢を持った主役ちゃんを探したいと思います。

国内から

私と JAM 徒然

【東京＝荒木 麻由】

皆様、新年あけましておめでとうございます。
皆様にとって良き一年となりますように。

初めてご挨拶させていただきます、荒木と申します。
昨年 JAM 事務局に入会しました。メソト

に行ったこともなく、JAM の活動にもまだ理解の浅い私が、会報に寄稿などしてもよいものかと迷いましたが、みなさんにつながる素敵な機会を頂いたと感謝して書くことにしました。
ご挨拶文と思ってご笑読頂ければ幸いです。



今のところさっぱりお役に立てていないのですが、定例会で明るいメンバーとともに作業をし、少しずつ現地の状況を伺い知ることが、毎月の楽しみになっています。

私から見た JAM の素敵なところは、その活動が迅速で的確であること、そして何より若々しく前向きな使命感にあふれ、状況が厳しくとも悲壮感を漂わせていないところだと思っています。ちょっと手前味噌でしょうか？

国境地域の実情にまだ疎い私ですが、以前、一度だけタイ国境からビルマ/ミャンマーへ入国したことがあります。

8年ほど前、リュックを背負いタイをバンコクから北へ、鉄道とバスを乗り継いで旅をした時のことでした。国境付近ではバスがしばしば検問され、乗客全員のパスポートが改められました。乗り込んでくる軍人が怖かったので、つい「さっ、さわでいかー」などと言いながら中途半端なうすら愛想笑いを浮かべて冷たい一瞥をあげたりもしました。ある時バスで席がなく床に座っていると、若い父親が7歳くらいの女の子を膝に乗せ、席を空けてくれました。きちんと父親の胸におさまり、前の座席の背に当たり赤くなった膝を痛がることもせず、次第に襲ってくる眠気とひそかに戦っている(寝ると私に足がぶつかるので)少女の姿はとても愛おしく脳裏に焼き付いています。行く先々で人々から感じる静かで強い生命力と慈しみ、そしてシャイな子供たちがふと見せてくれる屈託ない表情は、私の心をやすやすと捉え、潤おしてくれました。その時、将来なにか恩返しがしたいと思ったのです。

とは言え、そんなこと、正直に言うと JAM に入るまでほとんど忘れていました。人の縁というのは不思議なもので、その後メンバーと知り合い、JAM の存在を知り、皆の引力に惹かれ入会してから今思うと、あの8年前から色々なことがつながっていたような気がするのです。

す。

去年は、各国で地震や洪水が相次ぎ、世界的に受難の多い年でした。人々の不安は、今は強い恐怖から慢性的な憂いに変化しているのではないのでしょうか。

メソトの状態について「慢性的な緊急状態」という不思議な言葉を最初に聞いたときは、「？」と思いましたが、クリニックの状態を聞けばまさにその通り。こういった慢性的な将来への不安は静かに人の心を蝕んでいくのではないかと思います。

生きのびることの次には希望が必要です。会報の「きょうのゆめ」コーナーで語られる子供たちの夢が具体的であればあるほど、私は泣けるほど嬉しく思い、活力をもらって、これが生きる力なんだと毎回思うのです。どうかその夢を叶えられますようにと。

課題も問題も山積する中で JAM が悲壮感を漂わせていない理由、それは「何をすべきか」と「自分たちに何ができるか」を知っているからではないかと私はひそかに思っています。それは政治や気候を変えるようなものでなく、小さなことかもしれませんが、でも、つながることでも乗り越えられるものが一つでもあるなら、こんなに素晴らしいことはないなあと、そして、他に何ができるのだろうときえ思えてくるのです。

私たちは皆、メータオクリニックを通してつながっていると思っています。今はまだお会いできていない会員の皆様にも、そんな気持ちで封筒の宛名を貼っていることをお伝えして(ちょっとストーカーっぽいですが怖がらないでくださいね)、ご挨拶の締めとさせていただきます。

今後とも末永く、どうぞよろしくお願い致します。

国際保健医療協力のなかで (15)

【東京＝小林潤】



「ハードよりもソフトが大事です。」

説得力のある言葉である。いかにいいものがあったとしても中身がなければしょうがないからである。

一方、「最低限のハードは、ソフトの運用に必要である」ということもあり、今回これを実感したことがあった。

現地スタッフから、モデルスクールの校舎新設の様子動画が送られてきた。生徒達もいきいきしているのがわかる。教師のモチベーションも上がっていると報告されている。

さらに動画をとった現地スタッフの目が、感動を伝える気持ちがあることも感じられ、JAMのスタッフのモチベーションもあがったのかと思う。

実は、このJAMの学校保健活動のモデルスクールの環境は劣悪であり、活動内容を含む学校保健の総合的評価においても最も悪い学校の一つであった。当初、悪いからこそ投入すべきと考えたが、昨年、現地を訪問して先生のモチベーションの低さに改善に導けるか心配になっていたのも事実であった。

今がチャンスである。

「自分たちの力だけでできる改善があるのか」学校の先生と生徒、さらにメータオクリニックの学校保健チームと一緒に考えて実行して欲しい。

「学校で子供達を健康にしさらに地域社会へも健康に導く」という概念にもとづく Health Promoting School の導入をビルマ移民学校で図ってきた。

その結果、3年で多くの教師が能動的に学校保健活動を実施し、環境改善、健康教育の実施等、確実に成果がでてきた。また Health Promoting School は、健康改善が教育の改善につながる点で、最近新たに欧米の先進国で捉えられてきている。学校保健の導入によって、学童らの勉強に関するパフォーマンスが改善されるといった科学的証拠も報告されている。

今回、このモデル校でもこの動きが始まったのではないかと考えている。よくなった環境で教師のモチベーションがあがり、子供達の創造性を伸ばす教育が実施され、いきいきと勉強する子供達が、送られてきた動画から感じられた。

劣悪な環境の学校をモデル校としたが、やっつけてよかった。この学校もなんとかなる。

編集後記

先日、現地事務局の前川が一時帰国をしていたので打ち合わせや事務連絡などもあり、久々に一緒に食事をしました。

がりがりにやせていたり、でぶでぶに太っていたりしたら、心配だなあと考えていたら、そんなこともなく、出国前と変わらぬ笑顔と体型でホッとしました。

第一印象は・・・「意外と日焼けしていない!!!」

前任も前々任も、メソト滞在中は夏休み明けの小学生みたいなことになっていたのですが。

写真は、一緒に食べたお鍋とデザートの一部です。



